

「日中植林・植樹国際連帯事業」2019年日中緑化協力林業青年代表団
参加者の感想（抜粋）

○良かったところ：丁寧、周到、親切、プロフェッショナル、とても総合的で綿密かつ正確に、植樹活動、環境保護や防災・減災の分野における日本の成功体験と効果的な方法を示してくれた。

提案：視察先の選び方について、もし時間が許すなら、原始林や人工林の核心エリアの視察を増やしてほしい。

中日両国の共通点：

1. 中日両国とも、植樹を重視している。国民の生活を満足させると同時に、生態環境の保護・修復の実現に力を入れている。すなわち、自然を利用すると同時に、自然を敬い、自然を守っているということだ。
2. 中日両国はここ数十年にわたり、広範囲に及ぶ人工林を育ててきた。人工林の面積、人工林の蓄積量を、いずれも急速かつ大量に増やしたことにより、気候の変化への対応や防災・減災の面で大きな力を発揮した。
3. 中日両国はいずれも、生態環境保護の理念を国のエコ発展における重要な内容として重視し、幅広く宣伝・教育活動を展開し、国民に理解の徹底を促している。

日本から学ぶべき点：

1. 長い目で見た植樹計画を設定し、長期にわたって実行している。
2. 科学的かつ合理的に植樹を行っている。その土地に合った方法で郷土種を植え、森林を純林から針葉樹の混交林へと誘導している。
3. 森林の生態系の働きを十分発揮させることで、野生の動植物が生存していける条件を整え、人間の健康や教育に役立つ場所を提供している。
4. 都市部の緑化を進めるにあたり、人にやさしい対策を実施し、人々の暮らしを便利にしている。また、建物の屋根やベランダをうまく利用して、立体的に緑化を進めている。
5. 幅広く国民に公益活動への参加を促し、国と国民が共同で美しい国を作っている。

○日本は近年、人工林建設において顕著な成果を上げている。森林を利用した防災に関する経験から私たちも学びたい。森林経営の分野や、国有林と民有林が一体となった森林づくりにおける日本の経験も参考にしたい。特に林種の区分と環境整備を密接に関連づけている点は非常に参考になると思った。

1. 森林資源の管理について：林種の区分と防災措置を密接に結びつけている。森林経営の方法も科学的で、少ない人員で効率的な管理を実現している。国と地方の管轄を区別することで、その土地の状況、または事案ごとに適切な措置を実施できており、木材を有効に利用している。我々も参考にしたいと思う。
2. 仕事のやり方と態度について：日本側の職員は、受け入れ団体の関係者を含めて、皆、綿密にスケジュールを立て、時間を厳守する。きっちり計画どおりに日程を進めようと務め、整然としている。今回の滞在中、日本人が仕事をする時に詳細の把握にいかにか力を入れているのか、さまざまな場面で見取ることができた。たとえば、企業のオフィスのブラインドはその時の日照具合によって開く角度が変わる。利用者にはとてもありがたい。これからは自分も仕事をする時、「細かいことにこだわらない」習慣を少し改め、細部まで気を配りたいと思う。
3. 風土や人情について：中国と日本は隣人だ。飲食、文化、文字に至るまで、さまざまなところに共通点がある。日本に来る前から、いろいろな情報に触れて、日本はマナーの良い清潔な国だと

知っていた。今回の滞在で、その情報が正しかったと証明された。明らかに日本は文明レベルにおいて中国より優れている。都市管理についても、学びたい部分がたくさんあった。国民全体の素養も高い。しかし同時に、中国もまたさまざまな方面で改善の努力を重ねてきた成果を感じる滞在でもあった。

4. まとめ：若い世代の1人として、理性をもって中日関係を受け止め、客観的に見た日本を家族や同僚、友人たちに伝えなければいけないと思った。また、日本人と交流する時は自分の言動に注意したい。今回の視察のある講義で聞いた「できる人は、できる事から始める」という結びの言葉は、まさにそのとおりだと思う。

○今回の植樹活動に参加して、環境保護と防災、およびその他分野の視察や交流活動を通じて、日本に対する全体的な理解が深まった。また、私が将来取り組む環境事業についても考えが深まった。これからは友人や同僚たちに日本で見聞きしたことを積極的に伝えていきたい。とりわけ、日本の環境保護や環境利用のやり方、細やかな森林管理、仕事に全力で向き合う精神は、私たちも学ぶべきだ。日本は森林の育成においてたくさんの功績を残しており、高い森林率を実現している。森林の利用方法も豊富だ。生物多様性の保護、防災対策については細かいところまで研究しており、政府による投入資金の減額、職員の減少など不利な条件下にあってもなお、仕事へのモチベーションを保って積極的に取り組み、良好な成果をあげている。本当に尊敬する。また、中日双方の関係団体の職員の方に、お世話になったことを感謝したい。期間中、真面目に責任感を持って取り組み、行き届いた対応をしてくれた。彼女たちの姿に、日本人の高度な自律の精神と、厳しい仕事への向きあい方、友好交流に対する強い関心が見えた。

○「天下大事、必作於細（老子）」どの公園を訪れても、緻密に、注意深く、細部にこだわって建設されたことが分かった。細部に労を取ること、複雑な物事がシンプルになり、難しい事が容易になる。あれらの公園の成功はまさに、1つ1つの細かな成功の蓄積によるものだ。

「人は地に法（のつと）り、地は天に法り、天は道に法り、道は自然に法る」。各公園の木の種類の選択や栽培の際の密度、また東京ミッドタウンの設計においても、自然にのっとり調和の美を見ることができた。ブラインドの角度ですら、日照の変化を十分に考えて設計されている。

帰国したら、日本で見聞きしたことや感じたことを、家族や同僚、友人に伝えたい。みんなに、瑞々しく生き生きとした本当の日本の姿を知らせたい。

○良かった点：

1. 仕事が細やか：職員はとてもプロフェッショナルで、自分が管理している森林をよく理解している。森林の発展に対する明確なプランを持ち、その計画を高いレベルで実行している。「カミネッコ（育苗ポット）」は、彼らの細部へのこだわりをよく表している。
2. 幅広い市民の参加：植樹のボランティア参加など、さまざまな活動を行って環境保護意識を高めている。

中日両国とも森林建設に力を入れて、大規模な植樹活動を行っている。しかし、日本は着手が早かったことから、樹林は既に成長し、重点が木材の利用へと進んでいる。「公共建築物等木材利用促進法」など、森林開発を促進する法律も定められている。中国は目下、森林の再生と保護に力を入れている段階だ。まだ森林生態系の価値を強調し、天然林の全面的な伐採禁止や公益林の保護に関する法律が公布された段階で、木材の利用については今のところ推進されていない。

日本は森林の価値をよく理解し、森林が国民の暮らしにさまざまな恩恵を与える「緑の社会資本」

であると分かっている。推計によると、森林には毎年 70 兆円の利益を生む価値があるという。中国はまだ、このような推計を出していない。日本の林業は綿密で手堅く、樹木の栽培、育成、間伐など、いずれの作業にも根柢があり、計画的に進められている。そのうえ、計画を厳格に遂行し、予定のレベルで実現しており、森林の質も高い。この日本のやり方は参考になる。日本の森林建設には、市民も多数参加している。ボランティアは森づくりの全プロセスに参加し、参加したという実感を高め、森林保護の意識を向上させている。中国も市民参加の面で努力すべきだ。

このほか日本人のマナーの良さや真面目な仕事態度も印象に残っている。1つのことを最高のレベルになるまでやり遂げる。日本人の匠の精神を、中国の人にも伝えたい。

○植樹活動がユニークだった。「カミネッコン（育苗ポット）」を手作りして、実際に木を屋外の地中に植えることもできた。今後は、この木を植える時間をもっと長くしてほしい。

今回の視察を通して、林業政策、湿地管理、森林経営、都市の緑化の分野でとりわけ幅広い専門的な交流ができた。交流の過程で学んだことも多く、収穫は十分だ。日本の林業は、管理に関する理念が先進的であるほか、技術が進んでいる、苗木産業が発達しているなど、たくさんの特徴がある。また、都市の緑化率も高く、市民や社会の環境保護意識も強いことが、以下のことから分かる。

1. 東京ミッドタウンが行っていた屋上緑化によるヒートアイランド現象の緩和、雨水と水の再利用、再生可能エネルギーの有効利用による環境汚染の軽減といった取り組みは、私たちも参考にできる。
2. 帯広の森林は、人口と産業が都市部に過度に集中することによって起こる、住宅地の郊外への無秩序な拡大を防ぐ役割を果たしている。
3. 北海道の森林管理について、多様な森林を利用・経営することで、生物の多様性を守り、木材の高付加価値化と未利用木材の有効利用などを推し進めている。